

暁を呼びさます 詩篇 108:1-6	2022. 1. 30 (睦月) 丘の上 NO. 674 春日部福音自由教会 山田豊
---------------------------	---

キリスト教会が今失っているものは、賛美です。失うというのはオーバな表現かもしれませんが、会衆や聖歌隊が歌うことにおいて、相当規制がかかっています。このことにより、礼拝に活力が失われているような気がするのです。

しかし本日の詩篇は、心から神を賛美し、感謝をもって礼拝している姿が歌われています。この姿勢には、揺るぎがないのです。人間は風に揺らぐ蘆のようですが、私たちの神様は揺らぐことはないのです、その方に一切をお任せしましょう。

この時期の日の出は、まだ6時半過ぎです。なので、せっかく目を覚ましたのだから、早く明るくなってほしいと願います。2節は、大きな音を立てて太陽を目覚めさせ、無理やり起こすかのようです。

神の恵みやまことは、天に上り、空高く浮かんでいる雲にまで届くといえます。いかに、神の恵みと真が大きいかを表す表現です。これでも足りないくらいでしょう。

全世界の地上の教会は、それぞれのところで本日も真心からの礼拝をささげていることでしょう。しかし、天の礼拝から見れば、まだまだ不十分なものなのです。天の礼拝に少しでも近づくような礼拝をささげたいですね。黙示録4章には、天の礼拝の姿が描かれています。私の心が惹かれたのは、神の御座を中心に24人の長老たちには座るべき椅子が用意されているのですが、彼らはそこから降りてひれ伏し、かぶっていた金の冠を脱ぐのです。ただ神さまだけをあがめることを表しています。これが礼拝者の姿です。私たちも、この4節を黙想するとき、私たちの礼拝を受けてくださる神の偉大さに圧倒され、信仰の態度として、このような姿勢を取る必要があるのです。

日の出は、太陽が東から上ってくることを言います。私たちの中にも素晴らしく輝くものがあるのです。暁の太陽のように輝くお方がおられるのです。その輝きを表して生きること、これがこの闇のような時代におかれたキリスト者の使命なのです。

2 コリント 4:6

6「闇の中から光が輝き出よ」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださったのです。